

式 辞

本日ここに、学士、修士、博士の学位記並びに修了証書を授与された皆さん、別科日本語研修課程の修了生の皆さん、誠におめでとうございます。

今日の授与式の日まで、皆さんを支え励ましてこられたご家族やご親族の方々もさぞやお喜びのことと思います。心より敬意を表したいと思います。

また、ご来賓の皆様には、ご多忙の中、授与式にご列席賜りましたこと、感謝申し上げます。

振り返ってみると、卒業生の皆さんが新入生として長崎総合科学大学に入学された二〇二一年四月は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、全体入学式は行われず、各コースに分かれての入学式となりました。入学後も、コロナ禍の中で学習環境に制約をうけながら過ごしてきたことと思います。このような不安な日々を乗り越え、無事に今日の日を迎えられることを、学長として大変嬉しく思います。

さて、皆さんは、“Boys be ambitious.” というウイリアム・スミス・クラーク博士の言葉を聞いたことがあると思います。

直訳では、「男の子は野心的になれ」となりますが、広くは「少年よ、大志を抱け」と訳され、男女を問わず若者を励ますのに最もふさわしい言葉とされて来ています。

“Ambitious.” を身の丈を超えた「野望」と訳すのか、それとも「目的、目標、理念、信念、理想」という人の心が向かい目指す方向と、人を思いやる気持ちと一緒に使っている言葉」として「大きな志」と訳すのかで、意味はかなり違って来ますので、一般的には大志の方が選ばれているわけです。

いずれの解釈を選ぶにしろ、皆さんは、自分の選んだ道を邁進し、その道を極めた技術者、世界に通じる研究者、あるいは世の中を牽引する経営者などになることを夢見ていることでしょう。

そのために、例えば、社長になりたいからと言って、最初から社長の仕事や振る舞いを勉強しても、誰もそういう人を社長には選びません。

新入社員としての仕事をしっかり考えて行い、その中の優れた人をひとつ上のチームリーダーも出来るだろうと判断してステップアップさせるのです。

そういうことの繰り返し、つまり、しっかりとその段階の仕事を極めた人が一つずつステップを上がって行けるのです。

ステップを上がると責任が出てくるから望まないということも耳にします。しかし、違った角度から見ると、ステップを上がるごとに自分がやりたいことを選べるという面白さも見えて来ます。

皆さんの前には輝かしい未来と無限の可能性が広がっています。そこでの夢をつかむための「大志を抱き」、また身の丈を超えてでも「野望を抱き」、人生を謳歌して行くのも一つの選択です。

また、社会では、これまでの学生時代よりはるかに多くの、はるかに豊かな「出会い」に恵まれることになるはずでです。出会いに感謝し大切にすることで、人生をより豊かなものにしていただきたいと願っています。

最後になりますが、皆さんが、本日、学位記並びに修了証書を手にされたのは、お一人お一人の努力の賜であることは言うまでもありませんが、皆さんを支えて下さった周囲の方々のご支援があつてのことと思います。今日の良き日にあたり、そのような方々に、是非感謝の気持ちを伝えていただきたいと思います。

皆さんのご活躍を祈念しつつ、今日から始まる、新しい人生に幸多かれと心から願って、私の式辞と致します。

令和七年三月十八日

長崎総合科学大学

学長 黒川 不二雄